

海外協力隊員に歯  
の健康管理促す

新生病院・北村氏が講義

新生病院口腔外科医長の北村氏は1月21日、駒ヶ根市の青年海外協力隊訓練所で、平成15年度第3次隊候補生を対象に歯科衛生に関わる保健衛生講座を開いた。写真。4月から途上国へ赴任する候補生に、健康の自主管理を促すためだ。

北村氏は「歯肉炎はほぼ100%の隊員が罹患している」と指摘し、う蝕の好発部位や歯科疾患のセルフチェック、ブラッシングなどにについて説明した。候補生らは、実際に正しい歯ブラシの持ち方を実践しながら、熱心に聴講していた。

北村氏は1977年から3年間、青年海外



協力隊員として、マレーシア先住民のオランダスリのために造られた国立病院に赴任している。それらの経験から踏まえ、「730日間の青春を大いに楽しみ、大いに苦しんでほしい。その経験が将来かけがえのないものになることを祈っている」と候補生にエールを送った。

候補生からは、治療に関する不安や不満の声を寄せられ、「赴任前にどこの歯科医院に行ったらいいのか」という相談が多く聞かれた。

小宮英夫訓練所長は、「赴任先の途上国では、十分な歯科医療を受けられないのが現状。候補生には自主管理の重要性を訴えていきたい」とした。

駒ヶ根訓練所の第3次候補生は162人。平均年齢は27歳。女性が93人と過半数を占めている。小宮所長は「徐々に女性の参加者が増えていく。候補生らは動機もはっきりしており、意欲もある」と評価したうえで、「ぜひ医療従事者にも積極的に参加してほしい」と呼びかけている。

今回は初の試みとして、東京都の広尾訓練所と電話回線をつなぎ遠隔講座を実施。広尾にいる約40人の候補生への講義や質疑応答は、電話回線を通じて行った。